

株式会社ウェッジホールディングス 2008年9月期(第7期)事業説明会

2008年12月19日

**株式会社ウェッジホールディングス
代表取締役社長 田代 宗雄**

Contents

■ ウェッジHDの概況

- ◇ 会社概要
- ◇ グループ沿革
- ◇ 3つの事業セグメント
- ◇ 各事業セグメントの概況
- ◇ グループ企業一覧

■ 2008年9月期の経営改革と業績

- ◇ 2007年9月期にみた当グループの経営課題
- ◇ 経営改革の推進
- ◇ 黒字転換と財務的成果

■ グループの事業活動ハイライト

- ◇ 物販事業の挺入れ
- ◇ 映画事業への投資拡大
- ◇ 新設子会社による事業領域の拡大
- ◇ グループリース社の成功と投資成果

■ 新たな成長に向けて

- ◇ Creative Stage Company
- ◇ 2009年9月期連結業績予想
- ◇ 2009年9月期単体業績予想
- ◇ 懸念すべきリスクへの対応
- ◇ 投資育成事業の機会増加
- ◇ 今後の株主還元について

ウェッジホールディングスの概況

企業概要

■ 会社名: 株式会社ウェッジホールディングス

(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)

◇ 資本金: 769,140,900円

◇ 本社所在地: 東京都千代田区神田錦町一丁目1番地 神田橋安田ビル4F

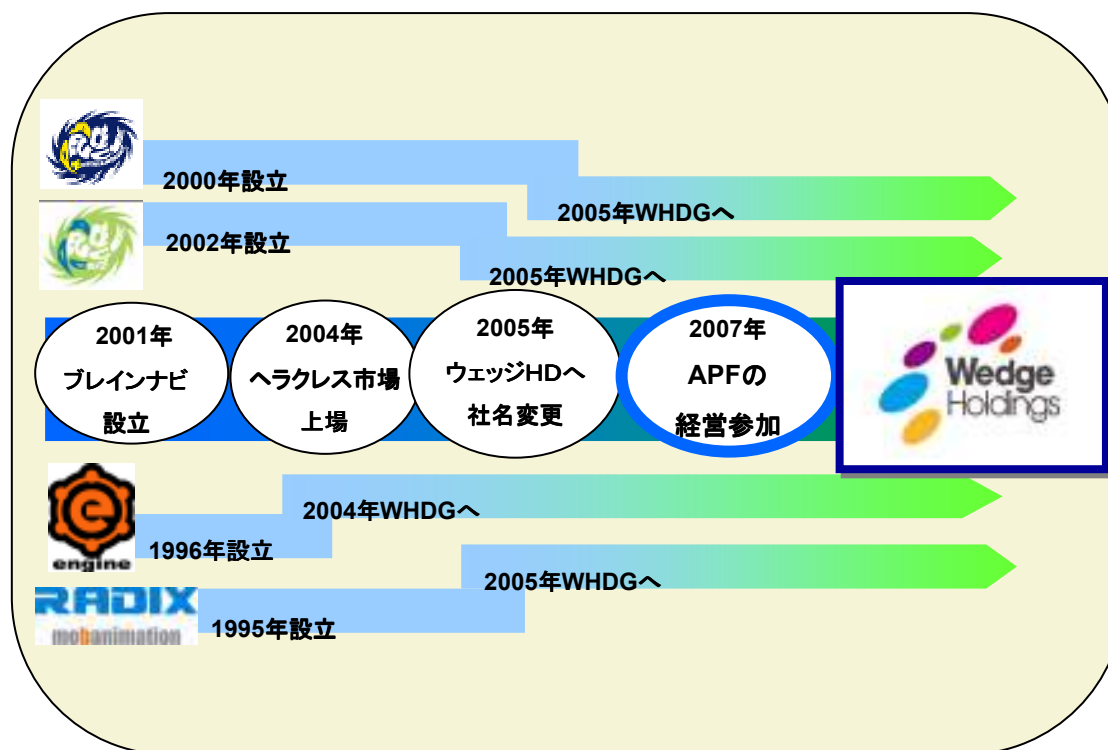
◇ グループ会社

- ◆ 株式会社エンジン(完全子会社)
- ◆ 株式会社エースデュース(完全子会社)
- ◆ 株式会社ラディクスモバニメーション(完全子会社)
- ◆ 株式会社スピニング(完全子会社)
- ◆ グループリース社(Group Lease PCL :持分法適用会社 タイ王国一部市場上場)

◇ グループ役職員数 122名(平成20年9月末現在)

グループ沿革

2007年明日香野ホールディングス社(APFグループ)の 出資に伴い、経営体制を変更

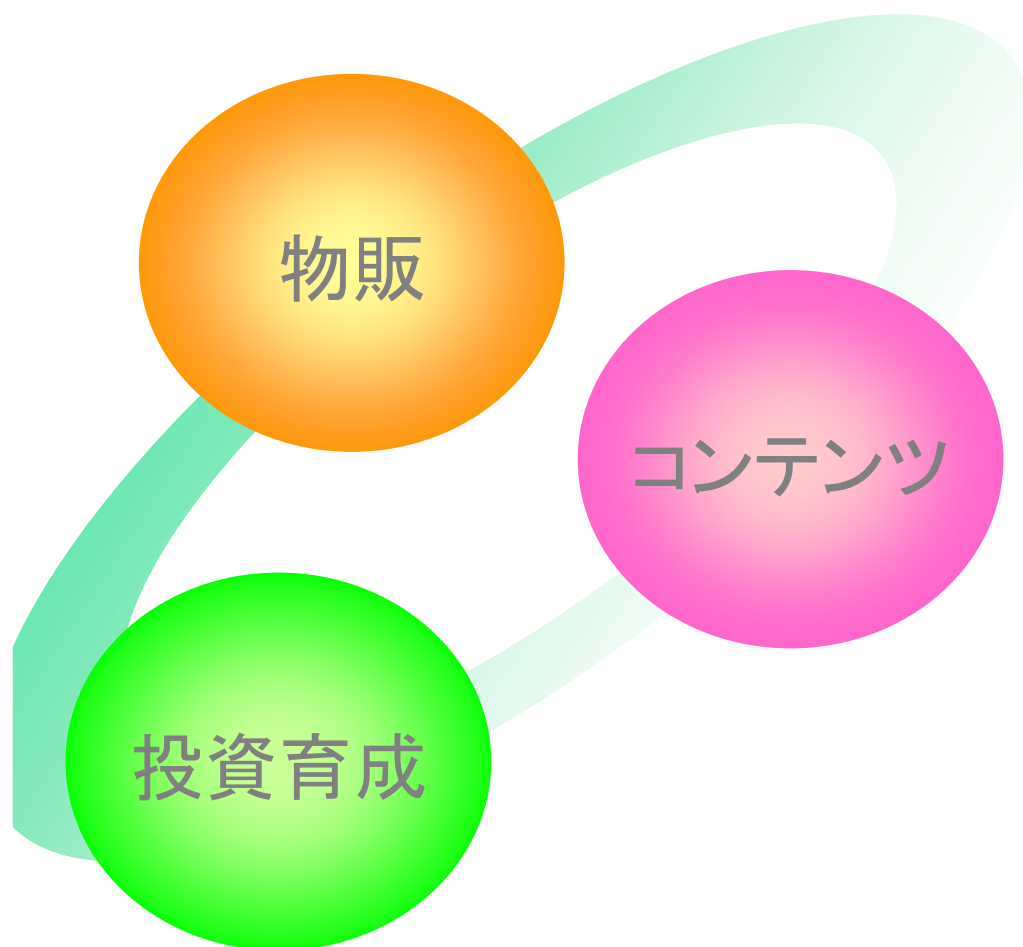


■ グループ沿革

- ◇ 2001年10月 株式会社ブレインナビ設立
- ◇ 2001年11月 原稿事業、出版事業、その他事業を開始
- ◇ 2003年11月 本社を東京都千代田区に移転
- ◇ 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場に株式上場
- ◇ 2004年12月 株式交換により株式会社エンジン株式会社を完全子会社化、その後同様に数社を株式交換により完全子会社化
- ◇ 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行、その後一部事業の吸収合併により事業持ち株会社化
- ◇ 2007年9月 第三者割当増資により、APFグループの明日香野ホールディングス株式会社が筆頭株主に

3つの事業セグメント

従来のコンテンツ・物販に加え投資育成事業が中核事業に加わる



■ 物販事業

◇ キャラクター関連商品事業

■ コンテンツ事業

◇ 編集・出版・映画・アニメーション・音楽・タレント・メディア関連事業

■ 投資育成事業

◇ 投資組合運営事業
◇ 国内外への投資事業

各事業セグメントの概況

物販

売上高7億9百万円
営業利益▲1億15百万円

固定費や在庫削減、
事業統合など
経営改善
赤字幅が縮小



コンテンツ

売上高13億97百万円
営業利益1億53百万円

経営管理の徹底から
大幅黒字化を達成

ACEDEUCE inc.



投資育成

売上高32百万円
営業利益23百万円
※持分法適用利益 60百万円

持分法利益と
短期投融資で
新たな高収益事業に



グループ企業一覧



株式会社ウェッジホールディングス

- ゲームクリエイティブ事業部
- ブレインナビ事業部

完全子会社



株式会社エンジン

- 物販事業
(キャラクター商品等の卸売
小売・EC展開)
- 投資育成事業

株式会社エースデュース

(10月1日合併)

ACEDEUCE inc.

- 映画・映像製作事業
- 音楽・タレント事業
- 広告代理店事業



株式会社スピニング

- (8月1日設立)
- 音楽プロデュース事業

株式会社ラディクスモバニメーション

- アニメーション制作
- アニメーション配信等



持分適用会社



Group Lease PCL(グループリース社)

- 投資育成事業における投資先会社(持分比率28.75%)
- タイ国内におけるバイクリース事業

2008年9月期の経営改革と業績

2007年9月期にみた当グループの課題

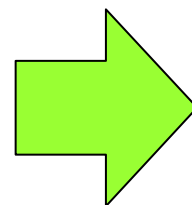
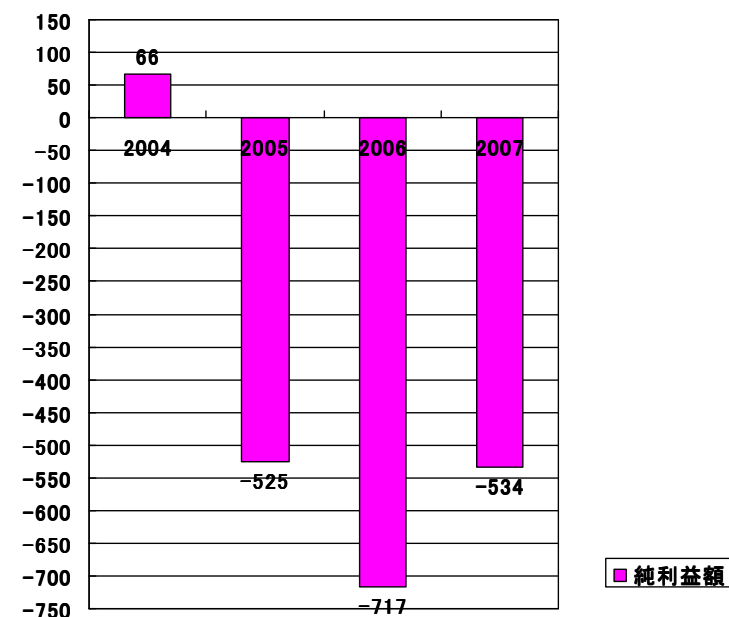
経営体制変更までの過去3年連続で多額の赤字決算に

■ 多額の特別損失と継続前提へ疑義

- ◇ 2004年末の上場以来、3期連続の損失により継続前提に疑義が発生

■ 経営管理の問題とグループ内の混乱

- ◇ 投資管理の不足によるコンテンツ投資の多額特別損失
- ◇ 物販事業の経営管理不足による在庫評価損の発生
- ◇ 過去続いたM & Aによるグループの拡大に対して連結経営体制が追いつかず
- ◇ グループ内の混乱の中、期待された事業シナジーが創出できず



**経営管理レベルの向上と
事業の再活性化が課題**

経営改革の推進

■ 経営体制の刷新

- APFグループから加わった経営陣が中心になり、既存マネジメントと協力してハンズオンでの経営改革を推進

■ 3つの経営改革の実行

◇ 経営管理

- 上場企業に必要な経営管理体制を整備、制度再設計から業務プロセス再構築、予実管理等、事業の特性を加味して順次導入
- 本部機能を拡張、販管コスト総額は抑制しながら本部人員を約2倍に

◇ 事業支援

- 脆弱だった本部機能を強化、事業部門に対する業務支援体制を整備、同時にグループ間コミュニケーションの改善を図る
- 本部機能として事業支援とインキュベーションをミッションとする事業開発本部を設置、各社の挺入れを継続

◇ 事業再編

- 子会社の再編、事業譲渡による事業統合化を推進
- 子会社合併(1件)、事業譲渡(2件)、資本増強などで企業グループを再構築

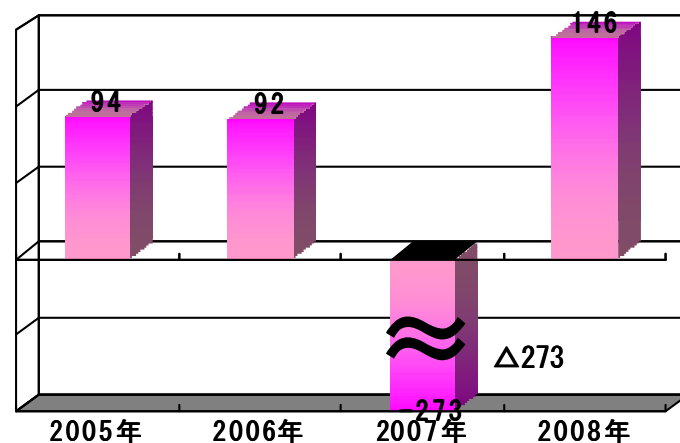
黒字転換と財務的成果

黒字化により1年で継続疑義を解消、新たなステージに

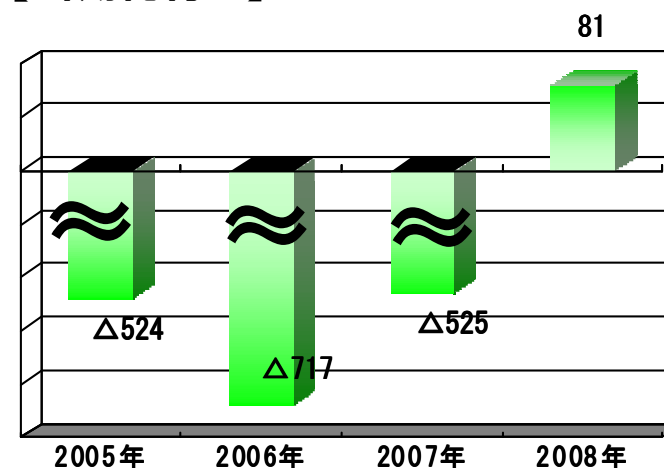
■ 連結経営成績

	2008年9月期	2007年9月期 (参考)	増減額	対前年比
売上高	2,139	2,593	▲ 454	82.5%
営業利益	62	▲ 265	327	－
経常利益	146	▲ 273	419	－
当期純利益	81	▲ 525	606	－

【経常利益】



【当期純利益】



グループの事業活動ハイライト

物販事業の挺入れ



- ワールドキャラクターストア・
「Blister」が原宿に移転オープン
 - ◇ 2008年春、マニア層からエントリー層までカバーする商品構成とし、Web通販、卸売と共に展開する物販事業の顔をリニューアル
 - ◇ 移転による営業中断のため売上は低下するが、販管費の削減を行うことで採算性は大きく改善



映画事業への投資拡大

■ 公開映画作品数の増加

- ◇ 小規模作品が中心に、収益安定性の高い領域の作品を多数製作
- ◇ 作品数は前期比較で2.7倍、出資金額は4.8倍になり、主要な作品のDVDパッケージ販売が展開される2009年度の売上へ貢献を見込む



ACEDEUCE inc.

新設子会社による事業領域の拡大

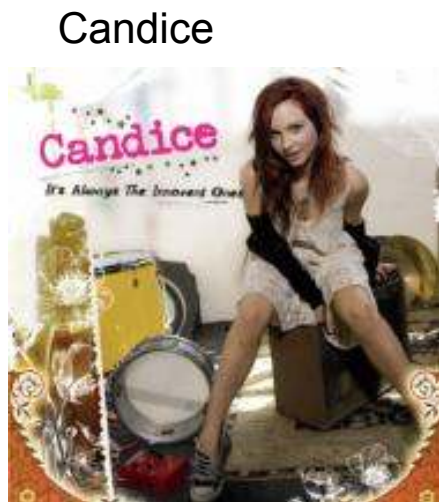


■ 8月1日株式会社スピニングの設立により音楽事業を拡大

- ◇ アメリカ・カナダのアーティストの日本国内でのプロデュース、PRから、音楽CD販売、音楽配信を手がける
- ◇ 最初のアーティストCandiceの「It's always a innocent one's」は9月末にリリース、その後のラインナップも着実に展開、好調な立ち上がりとなる。



Rides Again



Social Code

グループリース社の成功と投資成果

■ 不況に強い業種としてグループの力強い収益源に



<グループリース社>
タイ証券市場上場 コード GL
ホームページ（英語） <http://www.grouplease.co.th/en/index.html>

- タイにおけるバイクリース事業で高収益ビジネスを確立
- 2007年以降、飛躍的な業績拡大
 - ◇ 2008年上半期はAPFグループ入り前の2006年下半期と比較し、売上約1.6倍・利益2.4倍の急成長
 - ◇ 経済情勢変動の中、バイクリース事業は安定的に推移、かつ自動車ユーザーの回帰傾向による需要増が顕著に
- ウェッジHDグループの高い投資収益
 - ◇ 2007年9月ウェッジHDグループは投資を決定、下半期から持分法適用会社へ
 - ◇ 投下資本490百万に対し、持分適用利益は半期で約60百万の貢献
 - ◇ 2008年9月期中の同社からの配当収入は約61百万円、キャッシュフローの改善に大きく貢献
- ウェッジHDグループにとって、当初の投資額に対するROIでは実質年利20%以上の高収益投資となり、09年期は通年連結によりさらに収益額の拡大を期待

新たな成長に向けて

Creative Stage Company

- 物販・コンテンツ・投資育成と各領域に渡り、創造性豊かな様々な「事業」と「才能」が活躍する「舞台」を作る会社として、新ビジョンを発表
- 事業を支える経営リソースを今後も強化、新たな成長へ



トップページ
Top Page

会社情報
Company

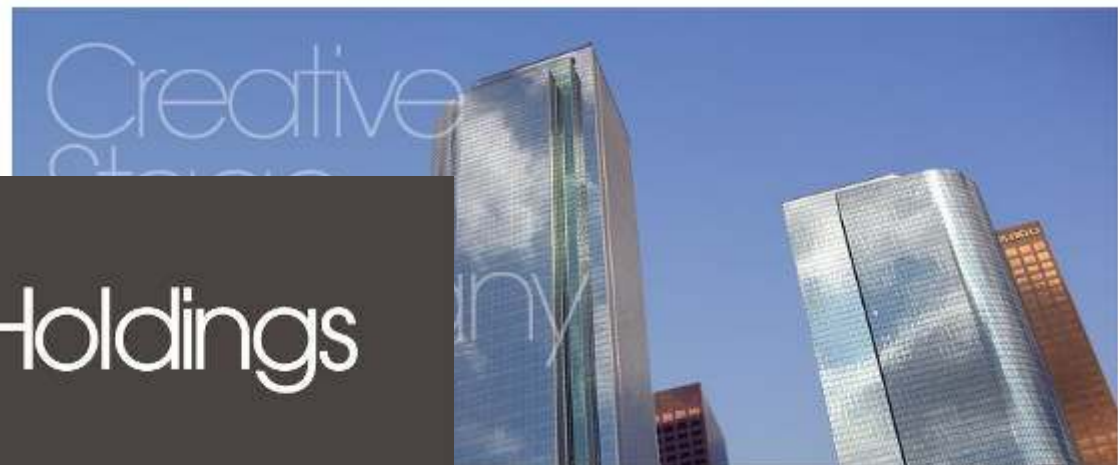
事業紹介
Business Overview

ニュース
News

IR 情報
IR

お問い合わせ
Contact

JAPANESE | ENGLISH



2009年9月期連結業績予想

(単位:百万円)

(連結業績予想)	2009年9月期 (予想)	2008年9月期(参考)	対前年比
売上高	2,400	2,139	112.2%
営業利益	100	62	160.5%
経常利益	250	146	171.0%
当期純利益	230	81	282.1%

- 再構築・投資を進めた各事業は売上回復・向上へ
- 収益性の高いカードゲーム事業の好調維持、投資育成事業の収益拡大で、営業利益も引き続き増加へ
- グループリース社の持分法適用利益は通年で適用され、経常利益、純利益を大幅に押し上げる見込み

売上の回復と利益の大幅な増加を見込む

2009年9月期個別業績予想

(単位:百万円)

(連結業績予想)	2009年9月期(予想)	2008年9月期(参考)	対前年比
売上高	675	898	77.1%
営業利益	77	90	85.5%
経常利益	84	104	80.7%
当純利益	126	97	129.8%

- たのみこむ事業、アニメ事業などを子会社に譲渡した結果、売上高は減少
- 事業譲渡による収益の移動と本部の経営管理・支援体制強化に伴う販管費増加で、単体営業利益、経常利益は減少
- 経営管理・支援を通じた子会社の業績回復で貸倒引当金が戻入益となり、純利益は増加

**連結経営の推進で純利益を増加、
より強固なグループ経営体制へ**

懸念すべき事業リスクへの対応

■ 2つの事業リスク

◇ コンテンツ市場の急速な変化への対応

◆ メディアの変遷と収益構造の変化

- コンテンツ投資に対する回収リスクは高まる傾向。
- 既存メディア収益は低下傾向、収益確保と新たなメディアへの対応が今後も重要に。

◇ 経済環境の急速な悪化への対応

◆ 消費者のエンタテインメント支出への影響

- コア層にフォーカスした作品は景気変動を受けにくいといわれるが、影響を見極め、素早い対応が必要。

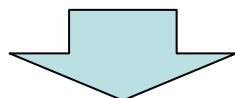
■ 事業ポートフォリオは継続的に見直し予定

- ◆ 収益性を継続的に評価、不採算事業からの撤退を含む事業再構築は今後も継続

変化を所与の条件と捉え、今後も改善を継続

投資育成事業の機会増加

- 経済環境の変化を背景に、投資には有望な機会が急増



- 今後は収益機会にあわせた柔軟な資金調達と事業拡大へ
- ウェッジHDの投資育成事業のコンセプト

- ◇ アジア市場での優位

- ◆ APFグループの日本国内主力企業として、東南アジア市場を中核としたアジアの優良投資案件に関して優位

- ◇ 長期安定収益源の確保

- ◆ 高収益事業の長期保有による長期安定収益源の拡大
 - ◆ 高ROEかつ配当性向の高い案件にフォーカスして投資

- ◇ 本来価値への着目

- ◆ 株価等一時評価ではなく本来価値に対する投資スタンスの徹底
 - ◆ 不況に強い業種への投資機会を重点的に確保

新たな機会を活用し、事業拡大へ

今後の株主還元について

■ 黒字化を達成した現在も経営改革は途上

- ◆当面は業績拡大を背景にした株価の回復が株主の利益にとり重要（IRの体制を強化中。今後も積極的に実施。）
- ◆復配時期は現在は未定

■ 一層の収益拡大と、早期の株主還元実施を目指す

- ◆復配：利益剰余金の欠損は昨年解消済み、業績と財務状況を考慮して実施へ
- ◆株主優待：グループの資源を活用した施策を検討中

ステークホルダーに報い続ける企業へ

ご清聴、ありがとうございました 今後ともご支援のほどお願いします

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス
経営管理本部

TEL: 03-5217-0721

FAX: 03-5217-0722

wedge-ir@wedge-hd.com

＊本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保障するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保障するものではありません。